

ヒメゴの庭

ゆうき刹那

R - 18
Adult Only





悠

おーい
ヒメ

スイカー

ああまた
じいさんまで

落っこちたら
どーすんだよ

あッ

パカ...

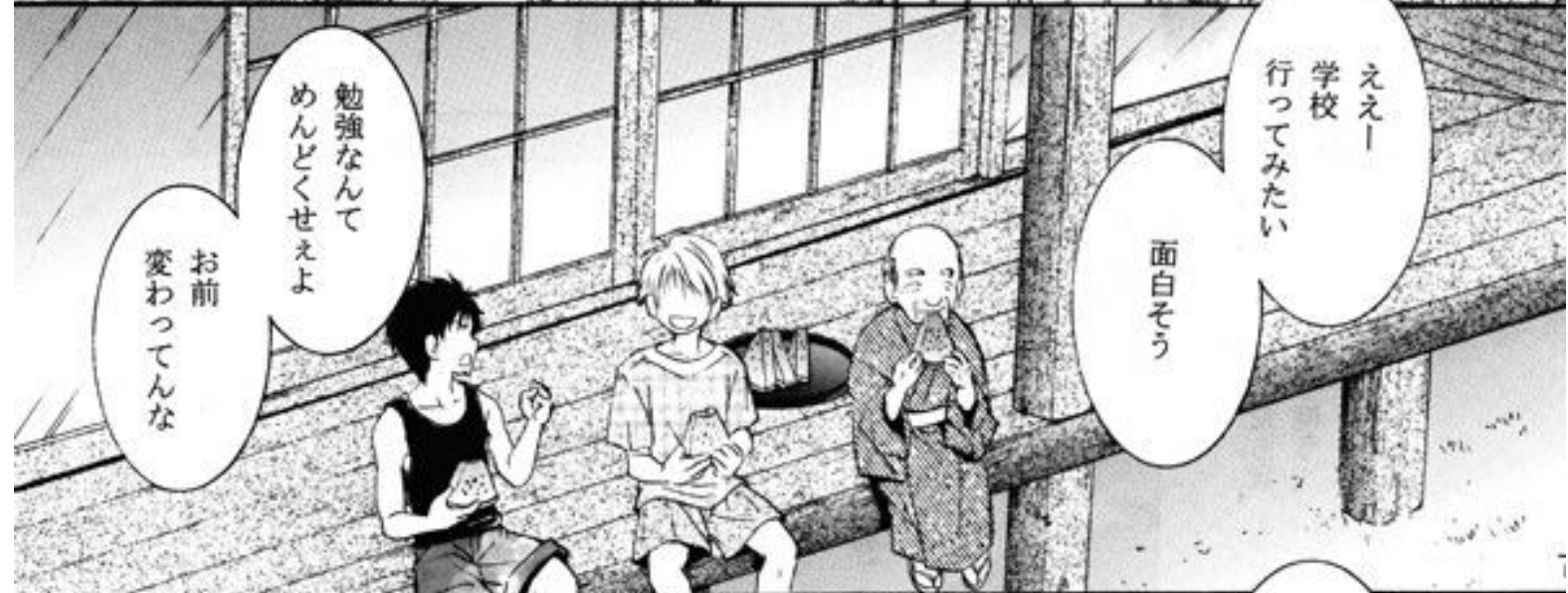
今
降りるよ

子供の頃から
ずっと

ヒメゴの庭

この寂れた神社の庭が
俺とヒメの
遊び場だった





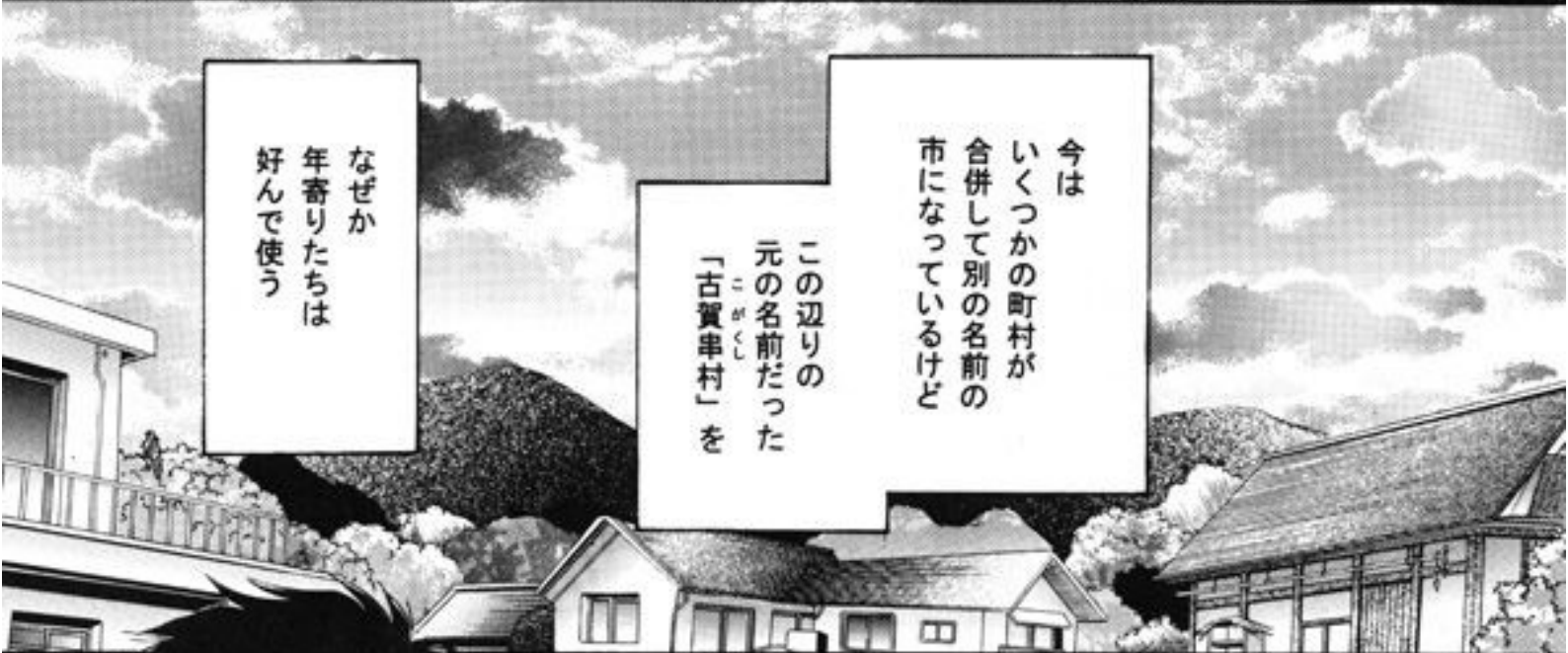


学校が終わったら
俺は
この庭で過ごす

物心ついた時から
そうだった

ヒメはずっと
ここにいて
俺を待ってる

学校にも行かず
どこにも行かず



今は
いくつかの町村が
合併して別の名前の
市になっているけど

この辺りの
元の名前だった
「古賀串村」を

なぜか
年寄りたちは
好んで使う



その名前の
由来がこれだ

俺の家……
鷹城家の敷地内にある
しよぼい神社

かつては
この地域一帯が
鷹城の所有地だった

その名残り

じゃあな

また
明日

うん

ヒメは
この鳥居の外には
出られない

悠

悠ってば



オンヤミ様は
暗がりにおられる

その姿は
ヒメゴにしか
見えない

ヒメゴは
子供好きのオンヤミ様の
遊び相手を務める
選ばれた子供

この集落は
オンヤミ様に
守られてきた
ずっと昔から

だから
ヒメゴ様も
村の宝なのだと
大人たちは言う



神の愛し子^{めこ}だったって
要は身寄りの無い子を
温情で育ててるんだろ？

世話役を
押し付けられたせいで
俺は自由に
遊びにも行けない

鷹城の
坊ちゃん

やしろ
お社に
おいでですか

うちの畑で
採れたものです
お持ちください

ヒメゴ様に

鷹城の嫡男の
俺を差し置いて
孤児のヒメが
重んじられるんだぜ？

ヒメー

じーさんー

ほれ水蜜

田代の
お婆さんから

すまんの

お帰り
悠

古典のテスト
どうだった？

えー

あかん

半分
寝てたし

こんな答案見たら
かーちゃん
卒倒しちゃう

オイヤミ様に
隠してもらおう

あーっ



幼い頃は何も知らずに
神社から連れ出そうと
したこともあった

五之塚の
裏の川に
鮎がいるんだ

見に行こう

だけど

お戻りください
ヒメコ様

鷹城の坊ちゃんも
御承知おき
ください

ヒメコ様は
やしろ
お社からお返しは
なりません





いちばん
好きだよ



誰がいたって
悠がいちばんだよ



この神社に
出入りするの
は鷹城の家の
ものと年寄
りばかり



子供の頃は
まかないの婆さん
に連れられて
ここに通った

あの頃は
ヒメの他に



鳳城の
坊ちゃん

坊ちゃん



女の人が出た



あなたはいいわ
ずっと
生きていられる

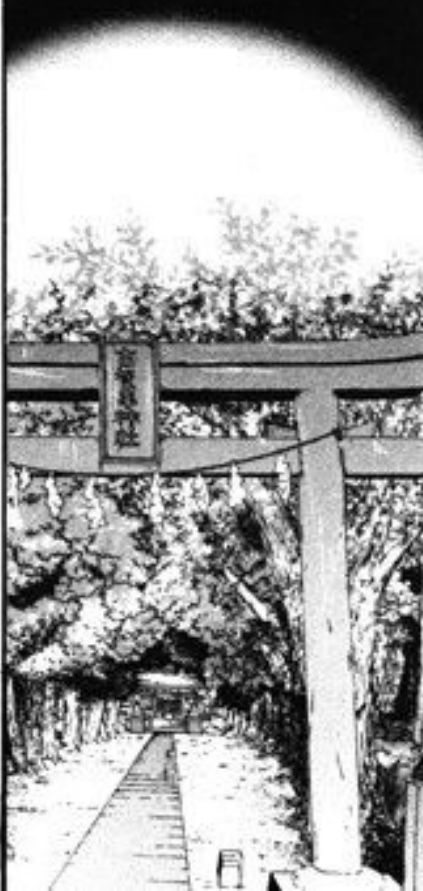
あの子の傍に
ずっと
いようよ

あの子に優しく
してあげて



あの子は

いずれ 神様に 食べられてしまうのよ



帰るよ

あの女の人は
病気で
死んでしまった

確かヒメが
七歳の頃だ

葬儀は
鷹城の家でした

他に誰も
来なかった

きっと
土地の者じゃ
なかったんだ

色素の薄い
髪も肌も

細い首筋も
ヒメによく似ていた
あの

女は

どうしたの？

いや

また

明日



夜は
オンヤミ様の時間だ

人の子は
神社に
居てはいけない
ヒメゴの他には

暗闇を
畏れよ

目に見えぬものを
敬え





おー
悠二郎

ヒメゴは
元気にしとるか

うわー
珍しい

オヤジがいる

三ヶ月ぶりだな
息子よ



まったく
こんなに
帰って来ないなら

家ごと東京に
引っ越した方が
いいのに

親父は鷹城家の
総領兼
古賀串神社の宮司だ

名目だけだが



東京に
でかい会社を持ってて
めったに
帰って来ない

貴和子さん
それはいかん

鷹城の跡取りは
神社を
護らにやならん



はいはい
わかってますよ

母は親父が
東京の大学で
出逢って

強引に連れて来て
嫁にしたから
この土地の者じゃない



早く東京に
帰りたいと
よく言っている

田舎は退屈
なんだろう



親父の会社は
こんな不況下でも
業績が良くて

この村の出身者を
多く雇っている

たいした産業も
観光収入も無い
この村の経済を
支えているのは鷹城家だ

そして鷹城家を
護っているのは――





なんで中庭に
塚なんか
あるわけ？

いいからお前も
拝んどけ



これはなあ

まあ
オンヤミ様の
出張所
みたいなものだ

大事にしろよ

鷹城の家を
護ってくれる
ものだからな



この辺
塚だらけじゃん

全部
拝んどけ

.....
ヒメんとこ
行くけど

もうすぐ
祭りだな

欲しいものがあれば
今のうちに言えと
伝えてくれ





ただし
嫁にする女に
最初の子供は
産ませるなよ



来月になったら
女作っていいぞ

そうだな
来月



親の
言うことか

何言ってるんだよ

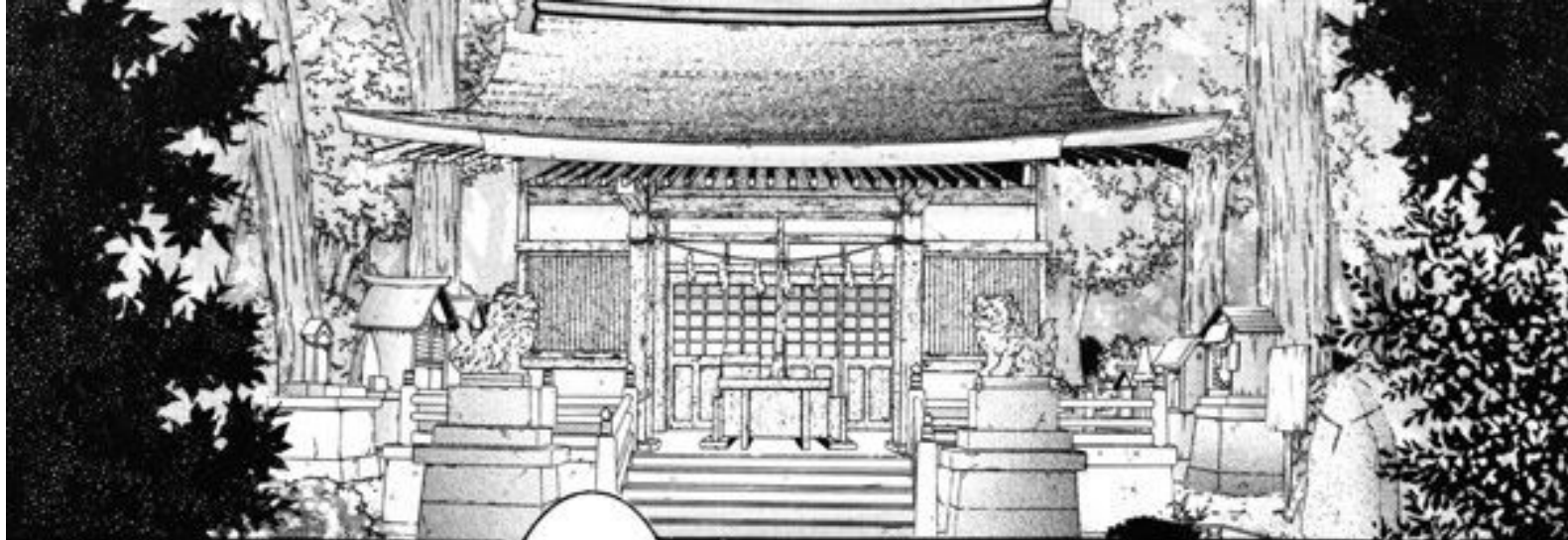
な



親だから
言ってるんだ

鷹城の家を
継ぐってのは

そういうもんだ









最初から
そうしてりや
面倒
無かったのに



……
儀式が
あるんだ

明日から
深斎に
入るんだよ



その祭司を務めて
ヒメゴの仕事は
終わり

それが済んだら
オンヤミ様の
祭りがある



祭り？
そんなの…

ああ
オヤジが
言ってた



本殿に籠って
七日間

オンヤミ様と
向き合って

身を清くして
水と神酒以外
口にしては
ならない

深斎？





悠は



な
なっ

何…



ずっと

続いて行く人生を
生きるんだ

これから
外の世界に
出て行って

女の子を
好きになって

このお社で
悠と一緒に
いられる時間は
あとちょっとだけ
なんだ

だから今



最後に時間を
僕にくれよ





オトコ同士で
どうするか
なんて

知ってる



おっ
お...



ゴクッ



なんで

悠の持ってきた
本の中に
載ってた



わざとだった

知りたくて

何も知らない
ヒメが
どんな反応を
するのか





抱きしめた体は

微かに
震えていて



ヒメがどれだけの
勇気を
振り絞ったのか

わかった



だから
拒めない

それが罪でも





快感なんか
追う余裕は無い

こいつにも
きつと
苦痛しか
与えてない





悠が
僕の中にいるのが

嬉しくて...



はっ



はあ

あ

ああっ

はっ



悠

好きだよ——





いつものように
鳥居の手前で
足を止めて

あいつが
笑っている



なのに
泣いてるように
見えたんだ



俺もなんだか
泣きたくて

なんでだか
わからないけど
泣きたくて

暗闇の中は
まるで
別の世界だ

見知ったはずの
道も木も家も

どこかに秘密を
隠しているようで







ヒメゴの座は
決まっている

.....



ヒメゴ様は
鷹城家の
護り神となられる





賛？

オンヤミ様への
捧げ物だ

賛子は
首を落とされ
五体を刻まれ

その体は

鷹城家を
取り囲んで立つ
五つの塚に
葬られる

一之塚に右腕
二之塚に胴体
三之塚に左腕

四之塚に左脚
五之塚に右脚

そして
五つの塚の中心

玉之塚に
首を



う

あ

ああああああ

魂^{たま}の塚！

玉之塚……

玉之塚





冗談じゃ
ねえよ

殺人じゃ
ないか…



殺人では
ない

ヒメゴはもともと
この世に
存在しない子供



戸籍も無い

生まれた時に
オンヤミ様に
奉納された名以外
人としての名前も無い

ヒメゴとは
秘め子
子隠し神社に
隠された子供

そして秘名
名を秘すもの



何代にも渡って
続いて来た
儀式だ

オンヤミ様に
贅を捧げることで
鷹城家の繁栄は
約束されてきた

鷹城の栄えが
すなわち
古賀串村の栄え



村中
加担してたって
ことかよ…



そんなことして
栄えたって

何に
なるんだよ…



え…？



あいつが
いなかったら

神に
捧げられていたのは
お前だったんだぞ





嘘ではない

俺の姉も
あの塚に
眠っている



ヒメゴは

お前に別れを
告げただろう？



祭りが
終わったら
悠の家に

ずっと悠の
傍にいるよ

あいつは

全部知って――







結婚した
ばかりの頃

あの人よく
夜中に
うなされてたわ

「姉さん」

「許してくれ
姉さん」



あんな
馬鹿げた話

全部
信じてたわけじゃ
なかったけど...



例えばの話

ずっと昔

鷹城の
跡取りとなるべき
長子が亡くなった

昔のことだから
子供はたくさん
産まれても

全員が無事に
育つことは少ない
それが何代か続いた

その富が
村ひとつ
養うほどになれば
人が群がる

子を失った親は
悲しみを紛らわすために
仕事に打ち込み
家は栄えた

やがて
あの家は子供を
神様に捧げて
見返りに
富をもらったと
噂がたつ

神様ではなく
人間が儀式を作り
贅を
欲するようになる

古賀串神社に
隠された子供は

村の共通の秘密として
存在自体
抹消される

神の名を借りた
殺人に
村中が
加担することで
全員が口をつぐむ

贅を解体し
護り神として
再構成する
システムって

こんな感じ？



人の命を
欲しがる
神様なんて

神様じゃ
ねえよ

神様なんて
いねえよ

さすがインテリ
都会育ち

そうね
東京にいた頃は

神様の存在なんて
考えたことも
無かった

でもこんな
深い森に
囲まれていると

夜は
どこまでも暗く
闇は深い

人の目に
見えない場所には
人の力が
及ばない何かが

存在するような
気が
して来るのかもね



とにかく
ご飯ちゃんと
食べなさいよ

いざって時に
腹ペコじゃ
力出ないでしょ



お前は
存在しない子供
なんかじゃない

俺は
知ってるんだ

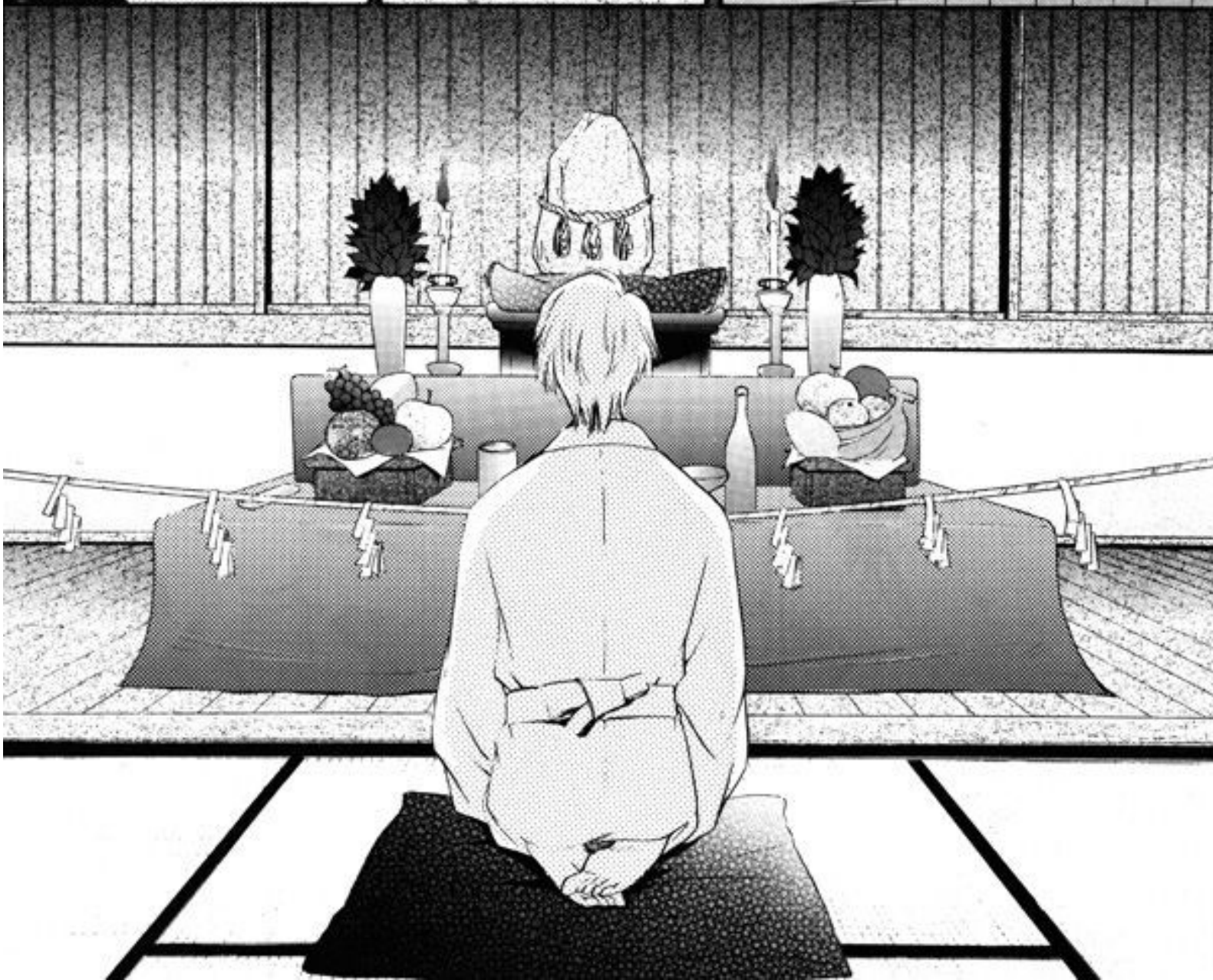
お前の肌は温かく
息は優しく

お前は――



いつもここで
遊んでたガキを
舐めんなよ













蠟燭の炎に
照らし出された
ヒメは

白い蛇のようにも
見えたし

月の光のようにも
見えた







悠が弟だって

知ってた



知ってて
罪を犯すことを
選んだんだ



この神社の庭と
悠だけが
僕の世界のすべてだ

人の子としての
名前も人生も
始めから無い



だけど
この世に生まれた証を
何も残さずに
消えて行くのは嫌だ



悠の心に
傷を残して
行きたいんだ――

悠は僕のすべてで
たったひとつだから

ダメだ……



世界がどれだけ
広くても

お前が俺の
すべてで

たった
ひとつだよ







夜だから
じゃない？

さあ

さよう
夜は
寝るものじゃ

なんで



じいさん

この辺に誰か
いなかったか

あっちで
寝こけとる



お前の母親が
さっき
これを置いて
行ったぞ



勝手に
出て行くんだから
ほっとこうと
思ったけど

無一文で
放り出すには
まだ子供だから



わ



金だ

携帯も



あんた
茅ヶ崎の
伯父さんそこ
行きなさい

連絡して
おいたから

武明伯父さん
とこじや
すぐオヤジに
バレるだろ



自分の子供を
死なせたい
親なんて

いるもんですか



追いかけてや
しないわよ



あんたの部屋の
エロゲーとDVDは
処分しておくから

鬼…



まあ
あとは自分で
どうにかしなさい

あんた馬鹿だけど
体力だけはあるから
何とかなるでしょ

俺が神様に
逆らったら

鷹城の家は
滅びちゃう
のかな

鷹城の人間には
もともと
商才がある

心配は
いらんよ

神は
何もせんよ

結局は人間が
自分で道を
選ぶんじや

うまく行くのも
行かないのも

自分の選択の
結果に過ぎんよ

隣町の
駅まで歩こう

着く頃には
始発が来る

これも
持ってお行き

ああ

ヒメは初めて
乗るんだったな

電車に
乗るの？







あれ

これ俺が
賽銭箱に入れた
答案……

あつ

そうだ
じいさん
何くれたんだ？

賽銭
貰っちゃって

パチ
当たんねえかな

大丈夫

神様が
くれたんだから

え？

悠！

夜が終わるよ

